
~シークレットゲーム~ any games

花鈴

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「シークレットゲーム」 any games

【Nコード】

N6566Z

【作者名】

花鈴

【あらすじ】

十三人のゲーム参加者による生死をかけた戦いが始まる。

これは『FLAT』開発の『シークレットゲーム』の二次創作です。

第一章 はじまり

第一章 はじまり

長く眠っていた気がする。

その内に頭をぶつけたたろう少し頭が痛い。

.....

ここはどこだ？

まず彼・・

北川涼の頭に浮かんだのはその言葉だった。

「おかしいな二、三時間前まで本屋にいたはずなのに見覚えのないベットに寝かされているなんて。」

思わず口に出してしまった。

おかしいな。まさか誘拐か？

いや、まだ決まったわけじゃあない。落ち着け落ち着け

「とりあえず場所を確かめないと。ケータイケータイと。」

しかし、彼が本屋にいたとき持っていたはずのバックはどこにもなかった。

「おかしいなー。」

そう言い辺りを見回してみる。するとテーブルになにやら小さい携帯端末が置かれていた。

「なんだよこれ」

頭では怪しいとは分かっている。しかし気になってしまふ。そして手に取り少し眺めているとpdaの類であることは分かった。

電源ボタンがないかと少し見直し、それらしきものお見つけ電源を入れる。

すると画面にトランプで言うエースの画像が出た。

「なんだよこれ。」

他にもパネルにボタンが付いていた。

「ルール?。」

疑問に思いながらもそのボタンを押してみる。するとこのような文字が目飛び込んできた。

ルール1

参加者には特別製の首輪が付けられている。

それぞれのPDAに書かれた条件を満たした状態で首輪のコネクタにPDAを読み込ませれば外すことができる。

条件を満たさない状況でPDAを読み込ませると首輪が作動し、

15秒間警告を発した後、建物の警備システムと連携して着用者を殺す。

一度作動した首輪を止める方法は存在しない。

ルール2

参加者には1〜9のルールが4つずつ教えられる。

与えられる情報はルール1と2と、残りの3〜9から2つずつ。

ルール3

PDAは全部で13台存在する。

13台にはそれぞれ異なる解除条件が書き込まれており、ゲーム開始時に参加者に1台ずつ配られている。

この時のPDAに書かれているものがルール1で言う条件にあたる。

他人のカードを奪っても良いが、そのカードに書かれた条件で首輪を外すことは不可能で、読み込ませると首輪が作動し着用者は死ぬ。

あくまで初期に配布されたもので実行されなければならない。

ルール8

参加者が三名以上死亡した場合は解除条件及びルールの一部がセカンドルールに変更される。

「し、死ぬってなんだよ。」

彼は叫び立てるがルールはこれ以上出てこない。

その後恐る恐る解除条件に手を伸ばす。

そこにはこのように書いてあった。

ファーストルール エース

ジャック、クイーン、キングのいずれかの p d a 二台を一時間以上所持する。

セカンドルール エース

不明

となっている。

次に地図に手を伸ばす。

「なんだよこれ。」

そこには、異様にでかい白地図が 1、2、3、4、5、6 の数字ごとに分けられ表示されていた。

「お、おい、まさかこの広さで六階建てかよ。」

おかしいこの p d a に書いてあることは全て真実なのか？

おかしい全てが非現実だ。いったいどうなっている。

と考えているとき、後ろのドアからノックの音がしていた。

登場人物

player card odds

北川 涼 A 3・0 きたがわ りょう

プロフィール

年齢

十七才

性格

いざというときでないと行動を起こさない。
比較的動揺しやすい。

? 理佳子 ? 6・5 ? りかこ

プロフィール

年齢

十六歳?

板野 慎吾 ? 1・5 いたの しんじ

プロフィール

年齢

二十九歳

伊吹 リョウコ ? 3・5 いぶき りょうこ

プロフィール

年齢

十四歳

西村 仁 ? 2・4 にしむら じん

プロフィール

三十四歳

赤野 鈴音 ? 9・3 あかの すずね

プロフィール

年齢

十一才

後藤 昌也 ? 6・5 しんごう しんごう

プロフィール

年齢

四十七歳

雨野 紫亜 ? 6・5 あまの しあ

プロフィール

年齢

二十四歳

生存者数

プロフィール
年齢
三十二歳

中川 恭子

?

4
・
4

なかがわ きょうこ

プロフィール
年齢
二十二歳

火野 玲子

?

5
・
7

ひの れいこ

プロフィール
年齢
十九歳

三高 愛理

?

3
・
1

みたか あいり

プロフィール
十三才

高野 弘樹

?

3
・
4

たかの ひろき

プロフィール
二十六歳

三谷 健吾

?

4
・
4

みたに けんご

十三名

残りpda数
十四台

bet完了者人数
1675/?人

現在最大bet金額
八千万円

残り時間
72時間37分32秒

第二章 出会い

涼は全くと言っていいほどノックオンに気づいていなかった。そのせいでドアの開く音にとても驚いてしまった。

「誰だっ」

咄嗟に後ろを振り向いた。

そしたらうしろには、二人の少女がいた。

「え。あ、うう〜。」

一人、口を開いて何かうめいている。

二人のうちひとり涼から見てもすぐに同い年とわかった。なにせこの地区一体のせいふくはほぼ同じだからだ。それにバッチに？-？

とクラス番号らしきものが書いてあったからだ。

もう一人は見るからに、小さい子だ小学生くらいか？。

「あのーお兄さん？」

あなたもここに連れてこられたんですか？。」

大きい子の方が言った。

「ああ、そうだ。」

「よかった。これでさんにんだよっ。」

「あ、え、はい。」

小さい子の方はかなりビクビクしている。

・・・そんなに俺は恐いのか？

「あの、よければしっていることおしえてくれないっ。これんつかいかたもさっ。」

そういつて大きい子の方は、ひらひらとpdaを振った。

「ああ、わかった。」

そして情報交換が始まった。

「あなたの名前は？」

大きい子が言った。

「おれは涼、北川涼だ。」

「私は理佳子っていうの。よろしくねリョー君。」

「りよ、リョー君だあ。」

「涼だからリョー君。いいでしょ。」

「まあいいけどな。」

「この子は、赤野鈴音。」

「あ、えと、よろしくおねがいひまひゅっ。」

緊張してるのか？。もしかしてほんとに俺そんなに怖いのか。

まあ、こんなところに連れてこられたせいだろう。うん。たぶんな。

・

「私たちのことは名前で呼んでねッ。」

「あ、ああ。」

あっけにとられてると。

「まあいいからさ、これの使い方教えてよ。」

と今更なことを言い出した。

まあこいつらのpdaも気になるし。ジャック、クイーン、キングのうちの2枚があれば解除条件とやらの達成にもなるらしいしな。

「ああ、これはこここのボタンを押すと電源がつく。」

「おおー。あ、また暗くなった。」

「画面にタッチしてみる。」

「あ、うん。」

「おお、文字が出てきた。」

「そして、pdaと書いてあるボタンを押してみる。」

「えーっと?」

「ここだよ、こここのボタンだ。」

「これー?」

彼女がボタンを押す。現れた絵柄はクイーンだった。

これは運がいいあとは、キングがジャックでおわりだ。と考えていると。鈴音が話しかけてきた。

「あの、私のと絵が違ってますけど。」

そういつて鈴音がpdaを見せてきた。

これは・・・なんだニンかもう少しだったのに。

「ああ、ひとりひとりちがうようだからな。」

と説明していると、理佳子が

「ルール？。なにこれ。まあおしこえ。・・・わっ画面がかわった。」

とルール画面を出していた。

しかもでかい声でその文を読み始めた。

「~~~~~ え、なにこの死ぬって。」

ルール1を読み終わったところで驚いていた。

無理もないだろうと思っただけが次に読み上げられたルール5と
という言葉が気になった。

「なに、ルール5だとっ。」

彼のpdaには3と8しか書いてないから他のルールが気になったのだ。

「みせてくれっ。」

「あ、はい。」

そこにはこのように書いてあった。

ルール5

開始から6時間以内に人を殺すと、殺そうとした者の首輪が作動する。

ルール7

侵入禁止エリアが存在する。

侵入禁止エリアへ侵入すると首輪が警告を発し、その警告を無視すると首輪が作動し警備システムに殺される。

また、2日目になると侵入禁止エリアが1階から上のフロアに向かつて広がり始め、

最終的には館の全域が侵入禁止エリアとなる。

ついでにクイーンの解除条件も見てみた。

ファーストルール クイーン

2日と23時間の生存。

セカンドルール クイーン
不明

となっていた。

「なあ、鈴音のも見せてくれ。」

「あ、はいっ。」

そういつてpdaをわたしてくれた。

それを受け取りルールと解除条件を見てみた。

ルール4

最初に配られる通常の13のPDAに加えて1台ジョーカーが存在している。

これは通常のPDAとは別に、参加者のうち特定条件を満たした者一名に配布される。

ジョーカーはいわゆるワイルドカードで、トランプの機能を他の13種のカード全てとそっくりに偽装する機能を持っている。

制限時間などは無く、何度でも別のカードに変えることが可能だが、一度使うと1時間絵柄を変えることができない。

他のPDAとの違いは、解除条件にPDAの収集や破壊があった場合にはこのPDAでは条件を満たすことができない。

ジョーカーは初期配布者以外の人物でも使用できる。

上記のシステム、条件以外は他のPDAとは一切変わらずこのPDAで首輪を外すこともできる。

また、ジョーカーの解除条件は偽装したPDAと同じになる。しかし、ジョーカー固有の解除条件もあるためどちらを選択しても首輪は外せる。

ルール9

カードの種類は以下の13通り。

A：ジャック、クイーン、キングのいずれかのpda二台を一時間以上所持する。

2：p d aを3つ以上破壊する。

3：3名以上に危害を加える。殺してしまった場合首輪が作動する。

4：首輪を3つ取得する。

5：自分以外のp d aを5回以上使用する。

6：全プレイヤーが解除条件を満たす。

7：10時間以上同じエリアに留まる。

8：p d aの拡張ソフトを5つ以上インストールしてある。

9：自分以外の全プレイヤーとの遭遇。死亡している場合は免除。

10：半径10m以内に10人以上がいる。

J：6時間以上行動を共にした人間が2日と23時間時点で生存している。

Q：2日と23時間の生存。

K：P D Aを5台以上収集する。

「これはすごい収穫だ。」

たしかにそうだ。

特にジョーカーがすごい。これを確保できれば最強だすぐ首輪を外

せるじゃないか。

・・・え、首輪？

よく考えると、首輪とゆうものはなんなんだ。

そう思い自分の首に手を伸ばす。

あった。これが

確かに自分の首にスッポリとはまり全く隙間なく付けられた首輪があった。

よく見ると理佳子、鈴音二人の首にも、首輪があった。

「あのーリョー君？」

すると理佳子が、ずっと黙っていたせいで心配してくれたのか。声をかけてくれた。

「あ、はい大丈夫です。あ、p d a返しますね。」

「ありがとう。」

「ど、どうも。」

「さてずっとここにも仕方無いな。ほかの人を探してみよう。」

「え？。」

「え、？他の人ですか。」

ああそうか、まだ説明してなかったな

「ここには俺たちをのぞくとまだ十人いるみたいだからな。」

「うーん。まあいいや。行きましょ。」

「わかった。」

こうして、涼たちは部屋を出たのだった。

第三章 急襲

かなり歩いたところで小さな異変が起こった。
p d aからアラーム音がしたからだ。

「な、なんだっ。」

画面には、ゲーム開始より六時間経過しました。これより館全域での戦闘禁止を解除します。とかかれていた。

「あいつらに、p d aの使い方を丁寧に教えすぎたせいか。全く無駄な時間を取られたな。」

いや、そんなことはどうでもいいそんなことよりは戦闘禁止が解除されたことだ。

「そうか、まずいことになったな。」

戦闘禁止が解除された。ということは背後からの急襲などができるようになったということだ。

周りにも注意しなくてはいけない。

銃があるのかもしれない。そう考えることもできる。

ゲーム、といったところや首輪、p d a、巨大な建造物、何から何まで金がかかりすぎている。

もしかしたら殺し合いで生き残る奴に対しての賭けをしているのかもしれない。

十分それもありえた。だからそう考えていたのだ。

しかし今はその頭の回転の良さがアダになったなせなら、その考え

ていた間にすぎができていたのだ。
だから理佳子の後ろにいる鉄パイプを持った女に気付かなかったの
だろう。

「理佳子っ。」

咄嗟に手を掴んで引っ張る。

ひゅっ

そんな擬音が似合うくらい空気が切り裂かれていた。

カランコロン

急襲に失敗したその女は、鉄パイプを床に落としてしまう。

「ちっ。」

失敗したことがわかると、男一人と女二人と戦うのは多勢に無勢だ。
不利だと悟ったのか、後ろをむき逃げ出していた。

「あわ、あわわわわ。」

状況に頭が追いつかない理佳子が驚いている。

「ちくしょう、あのやろう。」

よく見えなかったが女性の二十歳程度だろう。なんてやつだ。

いや、これこそがホントの正しいゲームの姿なのか？おかしいのは
おれたちなのか。

そう考えていると。

「涼さん。ここは危険です一旦近くの部屋に入りましょう。」

と鈴音が提案してきた。

「ああ、そうしよう。理佳子、立てるか。」

そう言い放心している理佳子を抱きかかえる。

・・・しかし俺たちはその部屋に入ったことを後悔した。そこには死体があった。

なぜわかったかというと。体中に弾丸の跡があったからだ。見た目からして男だろう、四十代だろうか。

ふと目を凝らすと近くに電源の入ったままのpdaが落ちていたそこにはこのようなことが書いてあった。

あなたは、pdaの解除条件を満たしていませんでした。ペナルティとして自動スマートガン迎撃システムによる攻撃を行います。

やはりこのゲームは本物なのだ。疑ってられない、これは現実なのだ。

「うっ。」

理佳子がうめき声を漏らす。

仕方ないだろう。

俺は男のものらしきpdaを手に取り操作する。男のpdaは6だった。

大して使い物にはならないなと思いつつもルールを確認する。

うん良くどのルールも今知っているのはかぶっていいなかった。ただ、ひとつだけだったが内容はこうだ。

ルール6

開始から3日間と1時間が過ぎた時点で生存している人間を全て勝利者とし

40億円の賞金を山分けする。なおこの勝利者を決定する時間は変更される場合がある。

・・・40億か、これなら殺し合いもするだろう。よく考えてある。

そう思っていると。pdaからまたアラーム音がなった。そして次のように表示されていた。

ゲーム参加者の死亡者が現時刻を持ってが二名となりました。それに伴いこれより、エクストラゲームを開始します。

ルールは2階の中央ホールにあるpda認証装置にpdaを読み込ませることです。

最も早かった人にはジョーカーのpdaを配布します。最も遅かった人にはペナルティにより首輪を爆破します。

それでは頑張ってください。

「おい、これを見てくれ。」

「え、なんなんですかこれ。」

「だからここに書いてあるだろう。俺はここから早く動きたい。お前たちはどうなんだ?。」

「行きます私たちも。」

「ならいい。行くぞ。」

こうして涼たちは2階を目指すこととなった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6566z/>

～シークレットゲーム～ any games

2011年12月23日00時45分発行